

〔源氏物語五葉〕わらはやみに、わづらひ給て、よろづにまじなひ。かぢなどせさせ給へど、しるしなくて、あまた、びをこり給ひければ、ある人、きた山になん、なにがしでらといふ所に、かしこさをこなひびと侍る。こそ夏も、よにをこりて、人々まじなひわづらひしを、やがてとゞむるたぐひあまた侍き、ゑ、こらかしつる時は、うたて侍るを、とくこそ心みさせ給はめなど聞ゆれば、めしつかはしたるに、おいからまりて、むろのとにもまかですと申たれば、いかゞはせん、ゑのびてものせんとの給て、御ともに、むつまじき四五人ばかりゑて、まだ暁におはす、や、ふかういる所なりけり。

〔源氏物語賢木〕そのころ、かんの君まかで給へり、わらはやみにひさしうなやみ給て、まじなひなども、心やすくせんとてなりけり、修法などはじめて、をこたり給ねれば、○下

〔中宮御産部類記〕源禮記 御誕生 井産養以後儀

元永二年五月廿八日癸酉、申時中宮○鳥羽中宮令誕生皇子○崇給、從今曉頗有御氣色○略 中宮主某同奉仕御祓、南階西典藥頭雅康朝臣鎮御座施呪術

〔奇魂二〕開胎術ワツワツ附 鎮帶考

皇國の療術は、外國に勝れたる中にも、此術等は、別てなんめり、素より是は病ならねど、平ならざる時は、中々に忌しき物なる故にや、古何はあれど、産には殊に禁厭を用けらし。

〔三中歴九術〕產婦易生呪

南无乾陀天與我句呪、如意成吉、吉祇利々々々祇羅針陀々祇羅鉢多悉婆婆呵。

朱書、華皮上燒作灰、和清水服之、即令懷子易生、聰明智惠、壽命長遠、不遭橫死、出三尊陀羅尼經

難產時呪

耆利闍羅拔陀羅拔陀者利闍羅阿婆呵